

埋蔵文化財

特集

赤保木遺跡の 石囲炉

センターレポート

楽しい活動てんこもり!

考古学教室⑤

土が伝える先人の営み
～東野遺跡の竪穴住居跡～

あゆみ

センター ミニ展示いろいろ

センター掲示板

好評開催中!ひだ発掘物語

& 近日開催!発掘速報展2005

赤保木遺跡(高山市)の動物意匠文土器
縄文時代 中期

特集

円形の石囲炉

円形の石囲炉を3基発見しました。

4号住居跡と24号住居跡の炉はどちらも大きめです。住居跡自体も大型であることから、大家族の住居、または集会をする建物であったかもしれません。

25号住居跡の炉は小型の円形で、住居跡も小型です。また、他の炉は主に川原石を使用しているのに対し、25号住居跡の炉は山石のみで作られているのも珍しい点です。



4号住居跡



24号住居跡



25号住居跡

いろいろな形の炉

コの字形の炉

弥生時代～古墳時代の頃と思われる住居跡では、3つの小さな石を「コ」の字形に並べた炉が見つっています。位置も住居の中央ではなくやや壁寄りに配置されています。



23号住居跡



26号住居跡

石が抜き取られた炉跡

19号住居跡の炉跡には石がありませんでしたが、焼土の跡をみると元は石があったと思われます。赤保木遺跡では、明らかに石が抜き取られたと思われる炉はこの1基だけです。



19号住居跡

土器の破片を敷きつめた炉

8号住居跡の炉では、土器の破片がいねいに敷かれていました。このような炉を「土器敷炉」と言います。土器の表面は焼けておらず、下の土が焼けていたことから、住居を使わなくなる時の儀式として敷かれたものと思われます。これらの破片は2つの土器に復元できました。



8号住居跡

特徴的な炉

縄文人のこだわり？

6号住居跡の炉は、四辺に長い石を使っていますが、左右の辺ではそれぞれ一つの長い石を割ってその一部を立てて並べています。石を割って長さを調整したのか、割れていた石を組み合わせたのか、よく分かりません。



6号住居跡

赤保木遺跡の石囲炉

赤保木遺跡は、見量山の山すそに位置し、高山市街から兼鞍岳・御岳などの山並みまで見渡せる南向きの斜面上にあります。

昭和29年に縄文時代の石囲炉2基が発見され県の史跡に指定されました。(現在は史跡公園として、竪穴住居や石囲炉が復元されています。)平成16年に当センターがその北側の調査を行い、32軒の竪穴住居跡を発見、そのうちの19軒で石囲炉の跡を確認しました。そのうち14基はほぼ完全な形で残っていました。縄文時代の石囲炉は、住居を使わなくなる時の儀式によって石が抜かれたり、後世の掘り返しによって壊されたりしていることが多いのですが、これだけの数の石囲炉がほぼ当時のまま残っていることは大変珍しい例といえます。

その一つ一つの形や作り方を見ていくと、共通している点もありますが、個性的な部分も見えてきます。赤保木遺跡の石囲炉から、大昔の人々の暮らしぶりを想像してみましょう。



縄文時代の住居跡 (8号住居跡)

石囲炉って何？

周囲をいくつかの石で囲んだ炉を石囲炉と呼んでいます。縄文時代中期(約5,000～4,000年前)の竪穴住居跡に多く見られ、主に住居跡の中央に位置します。縄文時代の人々にとって石囲炉は、火をたいて食物を煮焼きし、暖をとり、灯りをもたらす、いわば生活の中心であったと思われます。弥生時代以降は小型化し数も少なくなり、古墳時代中期からはカマドが煮炊きの場として利用されるようになります。

共通する点



10号住居跡



20号住居跡



1号住居跡



5号住居跡



15号住居跡



17号住居跡

入口はこちら!?

石囲炉の多くは一部に平らな石があり、一般的にはその石のある側が住居の入口側だと考えられています。10号住居跡や20号住居跡は、その平石の形によって全体が舟形に近い形になっています。

四隅の丸石の意味は？

方形の石囲炉の多くは、角に小型の石が配置されています。すき間を埋めたり石を固定するためのものかもしれませんが、堂之上遺跡(高山市久々野町)では、四隅に石棒を立てた炉が見つっています。1号住居跡の炉の一角には磨石が配置されており、丸石を立てているものには宗教的な意味があるのかもしれませんが。



赤保木遺跡全景



赤保木遺跡
(高山市赤保木町)

赤保木遺跡の住居跡と炉跡

時代	住居跡	炉の形態	炉の大きさ 縦×横 (cm)	備考
縄文時代 中期中葉	16号	地床炉		
	18号	地床炉		
縄文時代 中期後半	1号	石囲炉(方形)	80×60	
	2号			
	4号	石囲炉(円形)	120×112	
	5号	石囲炉(方形)	72×72	
	6号	石囲炉(方形)	72×81	
	7号			
	8号	石囲炉(方形)	126×83	土器敷炉
	10号	石囲炉(舟形)	87×61	
	11号			
	13号	石囲炉		一部石なし
	14号	石囲炉		一部石なし
	15号	石囲炉(方形)	95×82	
	17号	石囲炉(方形)	85×78	
	19号	石囲炉(方形)		石の跡のみ
	20号	石囲炉(舟形)	98×57	
	21号	石囲炉		一部石なし
	24号	石囲炉(円形)	82×83	
25号	石囲炉(円形)	62×50		
28号				
29号	石囲炉(方形)	99×73		
31号	地床炉			
32号				
弥生時代 中期	9号			
	12号	地床炉		
	22号			
弥生末～ 古墳初頭	23号	石囲炉(コの字形)	36×50	
	26号	石囲炉(コの字形)	31×31	
	27号	石囲炉(コの字形)		一部石なし
	33号	カマド跡		

用語解説

- 地床炉**…炉石を用いず直接地面で火を焚いた炉。
- 石棒**…棒状の自然石をみがいたり削ったりして成形した石製品。住居内や広場などに設置してお祭りや儀式などに使用したと思われる。
- 磨石**…みがいたりすったりしたあとが残っている石。

お知らせ

土器敷炉のレプリカや復元土器など、赤保木遺跡の出土遺物を、発掘速報展(詳細はP.8)で展示します。ぜひおこしください。



赤保木遺跡のマスコット
ほーぎーくん

タイムスリップ探検隊・飛騨

「お！ 出てきた。土器や！」これは平成17年7月27日(水)、高山市上切町の野内遺跡で行った親子発掘体験「第14回タイムスリップ探検隊・飛騨」での一コマです。21組42名の小学生とその保護者が、台風一過の青空の下で元気に発掘体験を行いました。午前中は水田跡の土を掘り、土器や木製品などの遺物をたくさん発見することができました。午後には高山市の風土記の丘学習センターに場所を移して、復元住居の見学や縄文土器の拓本作業を行いました。

<参加者の感想> 小学校5年生ある児童の感想(感想文の一部を抜き出しました。)

私は遺跡発掘で体験する前はどんな土器が出てくるか分からなかったから、ワクワクしてどんなだろうと思ってたけど、道具の名前や使い方なども教えてもらい、班ごとに手伝ってくれる人がいて安心してやれました。

私の夢は、獣医さんになることだったけど、今回の体験で遺跡を調べてみたいという夢も持てたし、これからの勉強に生かしていきたいです。



発掘体験の様子

土器を見逃さないよう慎重に掘るぞ!

土器、
見つけたぞ!



発掘体験の様子

センターレポート

文化財保護センターの
教育普及事業

楽しい活動てんこもり!

当センターでは、学校教育と連携した様々な教育普及事業を行っています。今年度の活動の中から、一部を紹介します。

私だけの土器が
できてきたわ!



土器作りの様子

「縄文時代へタイムスリップ ～わくわく土器・土器大研究～」と題して行った新企画です。7月27日(一部の参加者は7月28日)と8月29日の2日間の日程で、当センター三田洞事務所において開催しました。

第1回では、縄文時代のくらしや縄文土器の文様を学習した後で、土器作りを体験しました。前もってどんな形の土器にし、どんな文様を描くかを各自で考えて設計図を描き、その図をもとにして土器を作りました。

約1か月の土器の乾燥期間を経て、第2回では縄文土器の野焼きを行いました。野焼きでは燃えさかる炎に負けずに、焼きムラがないように土器を回転させながら焼きました。最後に、活動の様子や出来上がった土器の写真や、縄文土器の拓本などをファイルにまとめ、夏休みの一作品としました。



野焼きの様子

熱いー。
野焼きって、思った
より大変なんだあ!

出前授業

「6年生を対象に、埋蔵文化財を活用した歴史の授業を行ってほしい。」という要望がありました。それにお応えして、高山市立の国府小学校と三枝小学校で、本物の土器を使った授業を行いました。その2つの授業について紹介します。

国府小学校では、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器を観察しながら、それらの違いを見つけ、土器の移り変わりについて学ぶ授業を行いました。子どもたちは、本物の土器に興味深く見つめ、意欲的に取り組む姿が見られました。

三枝小学校では、修学旅行に向けての事前学習として、古代(奈良時代から平安時代)の土器を観察し、昔の人々の暮らしについて考える授業を行いました。子どもたちは、本物の土器を実際に見たり触ったりしながら、意欲的に課題を追究していました。

今後も、県内の小・中・高等学校を対象に埋蔵文化財に関する出前授業の要望をお待ちしております。



三枝小での出前授業の様子



国府小での
出前授業の様子

【お問い合わせ先】

このほかにも、「職場体験」「歴史学習教材としての資料の貸出」など、考古学・埋蔵文化財に関する教育普及活動を行っています。希望や要望がございましたら、お気軽にご相談ください。

文化財保護センター三田洞事務所調査部
(TEL 058-237-8553 FAX 058-237-8551)

ぜひ、ご活用
ください。



土が伝える先人の営み

ひがしの たてあなじゅうきよあと
～ 東野遺跡の竪穴住居跡～



河合 洋尚

「なぜ竪穴住居跡ってわかるんですか。どうやって建てたのですか。」

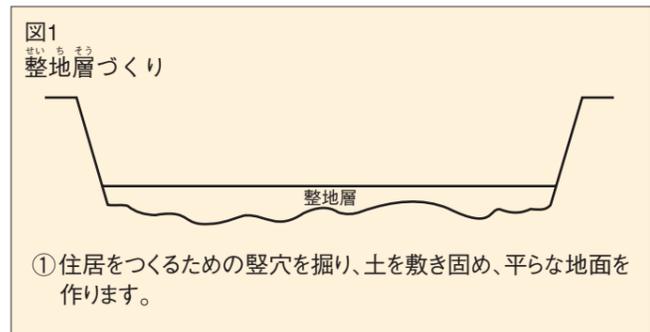
発掘調査の現地説明会の際、参観された方からよく受ける質問です。今回は、このことについて東野遺跡で見つけた古墳時代後期の竪穴住居跡の例で確かめてみたいと思います。

竪穴住居に限らず、ものをつくる順番というものは、衣服を着ると同じです。重ね着をするとき、先に着た衣服の上に後で着る衣服を重ねていきます。これと同様に考え、新旧が重なっているところをよく観察すれば、建てた順序を明らかにしていくことができるのです。

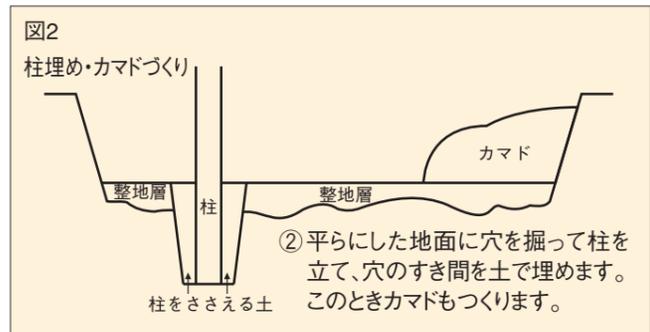


写真1は、東野遺跡の16号竪穴住居跡です。住居の北側の壁にカマドが備えられ、そこに埋まった土の中から6世紀後半～7世紀の須恵器が見つかったこと

から、古墳時代後期の住居跡であると考えました。図1～図4は、この竪穴住居の作り方を順に示したものです。



これは、自然に堆積した褐色の土とは、色や硬さが違う土が敷きつめられていることから分かります。16号竪穴住居跡では、やや黒みがかかった土が確認できました。これを「整地層」といいます。

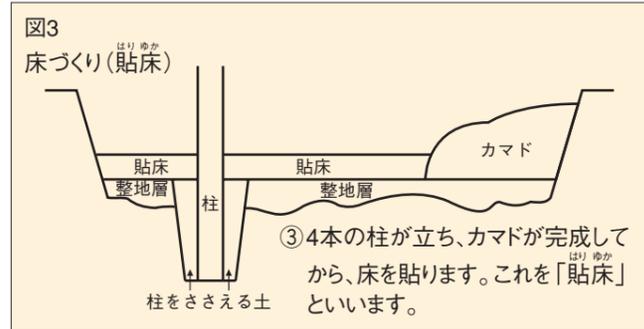


これは、柱があったところに埋まった土、穴と柱のすき間に

埋められている土(柱を支える土)、床を固めるのに使われた土の3つを比べると、色や硬さが違っていることから分かります。また、カマドがこのときにつくられたことも、カマドの下の土が、平らにした整地層と同じ土である事実から分かります。



写真2 16号竪穴住居跡の柱穴



これは、写真2からわかるように、柱と穴のすき間に埋められた土の上を貼床の土が覆っていること、また、カマドの壁の下の部分に少し被さっていることが証拠になります。

実際の発掘調査では、どの土が先で、どの土が後に埋まったかをよく観察して、後に埋まった土から順に一層ずつ掘っていくのです。これは、重ね着した衣服を脱ぐとき、いちばん後に着た衣服から順に脱いでいくのに似ています。1軒の竪穴住居跡を丁寧に発掘することで、先人がどのように住居をつかったかが分かるのです。



あゆみ

貴重な遺物が
展示されとると!



センター ミニ展示いろいろ

当センターで保管している出土遺物を、広く県民のみなさんに公開する目的で、県内の数か所でミニ展示を行っています。ここでは、その内の2か所でのミニ展示について紹介します。



徳山民俗資料収蔵庫
山手宮前遺跡の遺物

徳山民俗資料収蔵庫(揖斐川町・道の駅「星のふる里 ふじはし」)
「山手宮前遺跡とおもり」と題して、縄文時代の石錘(石のおもり)と旧徳山村に伝わった民具の「はばき編みのおもり」とを比較して展示を行っています。石錘のほかにも、竪穴住居跡から出土した縄文土器や、中世の出土銭など多数の遺物を展示しています。なお、このテーマでの展示期間は平成18年1月末までで、2月からは「戸入村平遺跡とうす」というテーマで新たな展示を予定しています。

開館日：土・日・祝日(午前10時～午後4時) 入館料：大人300円、小人150円(小学生以上)



県民ふれあい会館(2F)

生涯学習センター展示ホールにおいて、遺物とパネルによる展示を行っています。現在は大垣市の荒尾南遺跡の紹介をし、弥生時代の土器や木製品などを展示しています。

このテーマでの展示期間は、平成17年12月18日(日)までの予定となっております。

観覧料は無料となっておりますので、ぜひご来館ください。



県民ふれあい会館生涯学習センター展示ホール
荒尾南遺跡の遺物

センター日誌

7/13(水)	三田洞事務所見学(山県市校長会14名)	8/12(金)	高山市・飛騨市中学校社会科研究会研修(30名)
7/16(土)	可児市総合会館にて発掘調査報告会開催(参加120名)	8/29(月)	三田洞事務所にて「夏休みキッズ考古学②」開催(参加28組40名)
7/27(水)	野内遺跡(高山市)にてタイムスリップ探検隊開催(参加21組42名)	9/23(金)	可児郷土歴史館と共催で特別展「発掘スペシャル可児 埋もれていた柿田の歴史」開催(11/27まで)
7/27(水)	三田洞事務所にて「夏休みキッズ考古学①」開催(参加23組35名)	10/ 1(土)	県民ふれあい会館にてパネル展「弥生時代の遺跡紹介」開催(12/18まで)
7/28(木)	三田洞事務所にて「夏休みキッズ考古学①」開催(参加10組14名)	10/ 8(土)	県政資料館にて「ふるさと 徳山展—遺跡の発掘調査と増山たづ子写真の世界—」開催(10/30まで)
7/30(土)	徳山民俗資料収蔵庫にて「山手宮前遺跡とおもり」展示(1/27まで)	10/15(土)	飛騨・世界生活文化センターにて企画展「ひだ発掘物語」開催(11/27まで)
8/ 2(火)	三田洞事務所で開催(昭和中学校2年生)	10/21(金)	檜原村平遺跡調査終了
8/ 3(水)	三田洞事務所で開催(昭和中学校2年生)	10/22(土)	野内遺跡発掘調査現地説明会
8/ 8(月)	野内遺跡で発掘体験(岐阜市の高校生19名)	10/27(木)	高山市にて全国埋蔵文化財法人連絡協議会～10/28(金)中部北陸ブロック連絡会開催
8/10(水)	飛騨出張所で職場体験(久々野中学校1年生)		
8/10(水)	野内遺跡B地点・D地点調査終了		

あとき

朝、玄関に入ると縄文土器たちが微笑んでくれます。三田洞事務所の玄関に、この夏、展示ケースが入りました。早速、縄文時代早期から晩期の土器が並べられました。ちょっとした展示ですが、「センターらしくなりましたね。」「展示替えがありますか。楽しみです。」と来られた方に好評です。あれこれ説明もできます。ぜひ、一度見に来てください。

センターが発掘した出土遺物の量は非常に多くなりました。多くの方に見ていただきたいという願いで、今秋も、岐阜県博物館で発掘速報展、飛騨・世界生活文化センターで企画展を行っています。可児市や垂井町、名古屋市にも多くの出土遺物を貸し出していますので、目にさせていただく機会があります。ぜひ、語りかけてやってください。



三田洞事務所玄関の展示

センター掲示版

企画展

好評開催中!

ひだ発掘物語



これまでに飛騨各地で行った発掘調査の成果を紹介しています。16の遺跡から出土した代表的な遺物、約250点を一堂に集めて展示しています。
下呂市の上ヶ平遺跡の石器、高山市の上岩野遺跡や岩垣内遺跡をはじめとする飛騨各地の遺跡から出土した縄文土器、高山市の西田遺跡の土偶、飛騨市の寿楽寺廃寺跡の瓦など、貴重な遺物ばかりです。
皆様、お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。



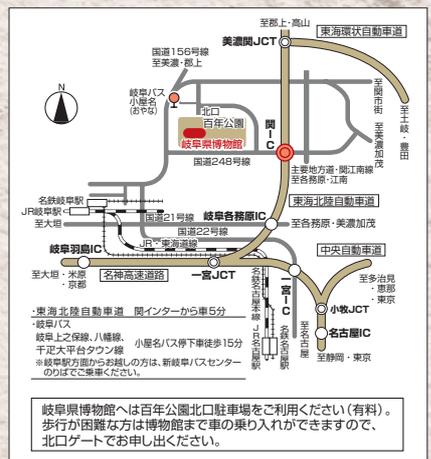
土偶 (西田遺跡)



開催期間 10月15日(土)～11月27日(日)
午前9時～午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)
休館日 毎週火曜日
場所 飛騨・世界生活文化センター
(高山市千鳥町900-1)
観覧料 一般320円(260円) 大学生110円(50円) 展示会場の風景 (ひだ発掘物語)
高校生以下無料 ()内は20名以上の団体料金
※上記料金は常設展示室観覧料と共通



近日開催! 発掘速報展2005



今年度も、発掘調査の成果をみなさんにご紹介させていただくために、岐阜県博物館において「発掘速報展～発掘された飛騨・美濃の歴史～」を開催します。飛騨・美濃合わせて6遺跡、約350点の遺物を公開します。
高山市の赤保木遺跡や揖斐川町の檜原村平遺跡等より出土した縄文土器、加茂郡坂祝町の東野遺跡より出土した土師器、美濃市の八幡前遺跡より出土した須恵器、可児郡御嵩町の上恵土城跡・浦畑遺跡や美濃市の清願寺跡より出土した中世・近世の陶器など、様々な時代の貴重な遺物を一堂に展示します。
また、中央大学教授の前川要氏による講演会も予定しています。
皆様、お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。



開催期間 11月15日(火)～12月18日(日)
午前9時30分～午後4時30分まで(入館は午後4時まで)
休館日 毎週月曜日
場所 岐阜県博物館(関市小屋名の百年公園内)
講演会 11月27日(日)午後1時30分から
『中世の「城」や「村」を考古学から探る』中央大学教授 前川要氏
入館料 一般320円(260円) 大学生110円(50円) 高校生以下無料 ()内は20名以上の団体料金

Center News

ホームページ
http://www.maibun.gifu-net.jp

三田洞事務所

〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
TEL. 058-237-8550(代) FAX. 058-237-8551
e-mail : gifu@maibun.gifu-net.jp

飛騨出張所

〒509-4122 岐阜県高山市国府町名張字峠1425-1
TEL. 0577-72-4784(代) FAX. 0577-72-4690
e-mail : hida@maibun.gifu-net.jp